

国蝶オオムラサキの観察会



写真①

宇都宮大学の高橋先生

写真②

クヌギの樹液を吸うオオムラサキのオス

7月5日(日)、佐野市栃本公園で「国蝶オオムラサキの観察会」(佐野市主催)が行われた。講師は宇都宮大学農学部の高橋先生(写真①)。昆虫にめちゃくちゃ詳しい小学生から昆虫を愛するマニアックな大人まで40名くらいの市民が参加していた。

オオムラサキを一目見ようと、会場はかなりの熱気だ。まず、参加者一人一人にレシーバーとイヤホンが渡された。ヘッドギアを付けた講師の先生が話される声が耳元で囁くように聞こえてくる。これはすごい！観察会もいまやIT化が進んでいるのだ。

ところで、オオムラサキは**国蝶**である。1957年、日本昆虫学会が、国の蝶として選定した。国蝶は、天然記念物などとは異なり、「日本全体的に分布していて、簡単に見られる種類であること。誰でも知っているような種類であること。大形で模様が鮮明、飛び方など日本的な種類であること。」などの点を満たす蝶として選定されている。「Pteron World 蝶の百科辞典」より)つまり、とりたてて珍しい種ではないが、大型で存在感がある蝶ということのようだ。

観察会では、クヌギの樹の幹で樹液を吸っているオオムラサキ(オス)を何頭か見ることができた(写真②)。高橋先生は、オオムラサキを見つけると、持っていた捕虫網の柄をすればと5mくらい延ばし確実にゲット(写真③)。網から取りだしたオオムラサキは確かに大きい！(写真④、⑤)飛翔力が強いので、ワシやタカのように、羽ばたかないで飛ぶことができるのだそう。国蝶というだけあって、存在感に溢れる蝶である。



写真③

写真④

写真⑤

写真⑥

写真⑦

写真⑧

写真⑥はヘビトンボの成虫、⑦はナナフシモドキ、⑧はコウゾの実(和紙の原料)である。